

恵庭市総合計画審議会総合調整部会（会議記録）

会議名	恵庭市総合計画審議会総合調整部会 第1回 会議	
日時	平成17年5月19日(木)午後2時00分～午後4時00分	
会場	市役所(3階)301・302会議室	
出席者	委員～出席8名 市側～竹村企画財政部長、斉藤企画財政部次長、菅原企画調整課長、吉田主査、佐々木主査、山口主事	
記録	氏名	企画財政部企画調整課 主事 山口 晃弘

1.開 会

2.審議事項

- (1) 基本構想検討スケジュールについて
- (2) 計画想定人口について
- (3) 将来都市像について

3.その他

4.閉 会

○ 会議の概要

(村本会長) それでは恵庭市総合計画の第1回総合調整部会を始めたいと思います。今日の審議につきましてはレジュメを渡してございます。そのような形で進めていきたいと思っております。また、4月19日には第3回恵庭市総合計画審議会を終了しておりますけれども理解できない部分もありますし、まだまだ気をつけていかなければならない問題もたくさんあります。その中で今日第1回目の調整部会ということでご審議の程よろしくお願い致します。それでは審議の方に入らせていただきます。基本構想検討スケジュールということで事務局の方から説明させていただきます。

(吉田主査) 資料に従い説明。

(村本会長) はい、ありがとうございます。では事務局の方から説明ございました。今後のスケジュールということで一番目に5月19日総合調整部会以降の日程がはいっております。二番目に専門部会の検討構想ということでただいま説明いただきました。質問ございますか。このパブリックコメントというのは事務局側で行うということでしょうか。

(竹村部長) パブリックコメントについては、審議して頂いた基本構想基本計画について内容を詰めたものを、広報で全部は無理でも、ある程度わかりやすいように掲載して、それに対して意見をいただくということになっています。それとインターネットで掲載し、更に支所、各出張所、いろいろ各機関で総合計画で審議されている内容を詳しくみれるようにしたいなと思っております。その中でなにか解らないことがあるなということをパブリックコメントとして市民の意見をいただきたいなということです。

(村本会長)それが20日間以上ですか？

(竹村部長)20日間以上取るということになっています。

(村本会長)特別その地域にいて説明してくれというのではなくて今言った形でもってパブリックコメントということですね？

(竹村部長)その地域にいろんな意見があったら、また皆さんに説明して議論いただくというような形になると思います。

(村本会長)よろしいですか？あと検討の部分もよろしいですね？それでは続きまして恵庭市総合計画推定人口ということでご説明いただきます。

(吉田主査)資料に従い説明。

(村本会長)将来人口についての考え方ということで説明がありました。何か質問ですか意見のあります方は。

(井関委員)自然動態、社会動態、その他の増とありますが、その他というのは、どういうものですか。

(斉藤次長)届出の義務がありますが、それが、なされていないときに、職務上の権限ということで削除などしている部分です。

(玉川委員)第3期の時には、数学的な推計としては、コーホート法、トレンド法のどちらで、推計しましたか。

(吉田主査)当時はトレンド法を使いました。現在実際の人口とは開きがありますが。

(島田委員)当てにならないということですね。まあ、何千人かの誤差は出るということですね。

(村本会長)社会動態の増加数が、平成6年で半分に減っていますが、この原因は、恵み野の土地が販売終了したことによるのでしょうか。

(吉田主査)恵み野の分譲が平成2年に終了していますので、その後、家が建ったりして、少し遅れて人口増加の幅が落ち着いたのだと思います。

(玉川委員)一般保留の部分が7,400人と説明いただきましたが、これは今後開発した場合ということでしょうけれども、現在の黄金地区の部分はどうなっていますか。

(吉田主査)黄金は市街化区域に入っているのですが、7,400人の部分には入っていません。

(竹村部長)7,400人の部分について説明しますが、平成12年の国勢調査時点の数字ですが、人口は行政区域全体で65,239人。その内、市街化区域には約60,300人。農村

部というか、市街化調整区域が 4,900 位。それで恵庭市の人口は 65,239 人。そこで平成 22 年にはどんなふうになっているか、市街化区域の中の空き地になっている部分に何人入るのかということ調べてみたら、68,800 人入る。12 年の調査のときよりも、8,500 人多く入る。農村部というか市街化調整区域は 12 年調査で 4,900 人いましたが、これが 3,800 人に減るでしょう。900 人の減ですね。これで 7,400 人の受け入れが可能ということです。

(井関委員) 恵庭市として、1 万人、人口が違ったら、市の行政面、財政面でどれくらい影響がありますか。人口は 1 万人くらい多く見てもいいとか、プラスマイナス 3,000 人位で見たらいいとか。

(竹村部長) 実際に行政を行う際には、例えば高齢者なら高齢者の、それぞれ個別の事業によってそれぞれの人口を考えて、その中でやっていきます。例えば、8 万人住むというときには、西島松など新しく開発しないと人口を受け入れることができません。下水道であれば、長い将来を見越して設定しておかないと急に足りないからといって下水管をすぐに設置するわけにも行きませんので、10 万人で想定しています。それぞれ、個別計画で行っています。

(井関委員) コーホート法、トレンド法で、だいたひ推計の人口も違って来るみたいですが、仮に恵庭市の人口が 8 万人になった場合の、50 歳代が今は多いと言っていました。そういう人たちはこれからは年金で生活していくことになり、そういう人が増えた場合と、それと若い人が、自分で稼いで生活していく人たちが増えるのでは、市のほうにも影響が出てくるのではないかと思います。人口の構成だとかバランスとかいった場合に市のほうの財政的にも違えますよね。8 万人のうち老人が何人いるかによって、例えば、老人の施設を多く建てなければいけないとか、福祉施設に費用がかかるなどあると思います。若い人が増える分には自分で稼いで税収も増える。というような見方ができると思います。6 万 7 千から 8 万に増えたときに、人口構成の分析は考え方として必要だと思いますがそれはできていますか。

(斉藤次長) 人口の年齢構成は施策にとって重要なファクターですが、あくまで推計ですが、老齢人口現在 16.7% ですが、5 年後には約 20%、10 年後には約 25% で推計しています。

(井関委員) まさに 4 人に一人になるということですね。

(島田委員) まあ、理想は人口の年齢構成がピラミッド型になるのがいいのですが、今団塊の世代が多くて、生まれてくる人が少なく、これがそのまま 10 年ずれていくわけ。そうすると当然働く人は少ないですが、団塊の世代の 55 歳位の方は、10 年後の 65 歳になってもそんなに働けないような状態ではないので、そういう人が労働人口に少し降りてくれて、なおかつ 20 代の方が、働く場を求めて、よそから来る。なおかつ出生率が上がるような施策をいま考えましょうということなんですね。定年が終わった人も働ける職場環境。子どもを産んでも働ける環境。よそから、20 代 30 代の方が集まってこれるようなまちづくりを考えましょうという総合計画なのかなと思います。

(井関委員) 人口の増える要因というのがあまり無いかなと。むしろ人口が減る要因のほうが多いような気がします。

(玉川委員) 道内的には、札幌から苫小牧のラインは一応増えています。

(島田委員) 伊達市が老人を受け入れて人口を増やす施策をとっていますけど、将来的

にはかえって財政的に苦しくなったりするのかなと思ったりもします。ですからやはり若い働ける人が集まってこれるような、なおかつ産業を興せるような計画にしてあげないと人口は横ばいか将来的に増えなくなってしまいます気がします。

(松尾委員)要するに、第4期の中で人口を想定していくときに、第3期が現実的に1万人以上違うよという中で、第2期第3期から続く中での人口の貼り付け計画がどうなっているのかという部分が1点あると思うんです。

あと、今説明があった中で、表現の捉え方が、農業従事者として、失礼な言い方かも知れませんが、表現の仕方が、素直に受け入れられない部分があるんですよ。農業人口が4,900人からまず下がるだろうという、10年の想定でしょうが。そうじゃないんですよ。恵庭の農業面積が、4,500あります。その中で国際的な農業行政の中で、1個人の農業者として、どれだけの農地を所有するかというときに、逆算すると農業者は何人で済むよと言うことになってくるんです。そうでなければ競争の中で、置いていかれる部分が出てくる。そういうことを踏まえて今、第2期農業振興計画から第3期の農業振興計画へ検討していくことになるんです。農業分野で人口の貼り付けを見たときに、逆にそこで、農業の後継者が何人必要なんだ、新規就農がどれだけいればいいんだ、そうすれば恵庭の農地は保全されて、年間、70億から80億の農業生産が継続できるんだ。そういうことになっていくんです。ところが先程から説明聞いていたら、事務方を非難するわけではないんですが、つかみで説明されると他の業種の方にしてみれば、農業全く衰退していくんだなとそういう見方でしか捉えられないと思うんです。

今街づくりの都市計画で見ている中でも、この最後に出ているように、新たな宅地計画の進展なんかが出てきてないから、そういう部分では、新しい街づくりの展望というのは、経済的にも、社会的にも考えられないだろうという表現の仕方です。例えばここで出ていた40何年、50何年の年齢層ですか、今恵み野の町の中でどうなっているのか。既にもう空洞化が起きていますよね、ところが実際今まで恵み野の表現の中で人口は7,000なんだという表現の中で市民に伝わっています。現実には人口が上がっていった時には小学校が足りない、中学校が足りないということで、投資してどんどん建てて行った。逆に今教室がたくさん空いている。こういうこの時代の流れをつかまえていったときに、団地造成は、今の黄金の部分を加えるなかでどうなんだろうかと、逆に今までやってきた総合計画のまちづくりのなかで、空洞化の部分がどれだけあって、そこに対して、第4期総合計画の中で人口増をもう一回考えられないかという検討をできるのではないかと思います。工業の関連、商業の関連で実際に誘致をやって来て見たら話が違う。工業用地としてまだ空きがあるが何故埋まらないのか。従来の考え方で追行すると時代背景が違うからそこに寄らないのであって、ならばこの第4期に向かって工業、商業をどう考えるか。その中でさっき島田委員さん言われた現役で生産人口に入れる環境と同時に定住できるような環境を作ることによってこの人口の想定というのは出せるのではないと思うし、5年サイクルでの総合計画のひとつの基点になるのでないのかなと思うんです。他の業種は、あまり解らないんですが、自分の専門分野の農業の説明を聞いているときに、何かこう実態と違う評価、説明というのは、非常にさびしい説明されているなど。これじゃ異業種のかたから、農業まさに衰退して、恵庭からなくなるんじゃないかと懸念されるような表現にならざるを得ないのかな、決して実態とは違うんですよ。ここは人口想定、将来人口を想定するって言うのは、こういう資料だとか国勢調査だとか当然参考にはしなきゃならんと思うけども、第3期総合計画までの経過の中で、恵庭の街づくりの部分でも、もう一回見直しをかけた部分と、更にそこに対するスクラップアンドビルドの部分でトータルはどうなるって言う集積をした中で、ここは自然に人口の想定って言うものは出来上がるのではないかなと思うんですけれども。私としては今までに要するにこれからそれぞれの行政が、従来のような総合計画のさわりではなく根本からもう一回見直しをかけた中で、皆が求める住みよい町をどうやって作るんだっていう考えになっていかないと、会長がいつも言ってますように農業もそうなんだけれども、商業もそうだと思うんですよ。通り1本まちづくりの中で要望があって、国道が

バイパスとなって変わることによって、まちというのはどんどん変わっていくんですね。それまでの都市効果っていうのがまったく切れて、次は新しい、部分に移行する部分についてはいいですけども。既存の人たちはどうなっているんだといったときに、非常にリスクを背負うような状況になってしまっている。同じまちづくりの中でも、後ろを見ながら、なおかつ攻めるといふそういう面を持っていかないと街づくりの戦略にはならないのかなと思います。

(村本会長) まったくその通りですね。今築 20 年から 25 年以上の住宅の 40% が空いている。人が入っていない。それを改築することによって、そこに人が入ってくる。例えば商業において、これがまちづくりのなかで、恵庭の魅力ができたときに、施策の中でどのようにやっていくのか、どういう施策をうっていくんだということが明確になれば、ある程度人口も増えていくんではと思います。農業と同じような、ここに対してどのような施策を打っていきけるかによって、将来の人口が増えていくんでないかな。人口が増えるって事はまちづくりに大切なことであって、ただ増えていくんでなくて、計画をもって増やす。ただ、市街化区域をどんどん広げていくということではなくて、政策によってきちんと増やす。ただ、市街化区域をどんどん広げていくということではなくて、今言ったようにもう一度フィードバックして、見直して、きちんとした人口想定をしていくという考え方が必要だと思います。

(松尾委員) 人口を増やそうといったときには、寝食を共にする場所が必要なわけですから、インフラを確保するために下水道から飲料を確保する水道から 10 万人を想定して計画が進んでいるようですから、増やすって言うことは、行政にとって非常に経費負担の大きい部分がかかるわけですから、最終的には市民の税金で負担するわけですから、そうなったときに、再生がきく部分はもう既に、下水道なり、飲料水の部分、そういう部分で言うのは大枠の中で出来上がっている中でなおかつそこが 100% きているのか、70% きているのかどうなのかって言うことを再確認した時に、もっともっと恵庭のまちとして、有効活用した再生のまちづくりを、提案できる部分で言うのは、新規を投資するのではなく、あるのではないのかなという気がするんです。

(玉川委員) 自分も都市環境の部会なので、委員の皆さんの話を聞くと、市外から新しくこられた方は町並みが新しいけれど、旧市街の部分でどうしても見劣りする部分はあるし、外に外に広げていけば、中がどんどん古くなっていくということもあって、やはり、再生の部分が必要ではないかなという話も、都市環境部会の中で出ていました。これからの経済状況見越しても、なかなか宅地開発は難しいであろうと、だから都市再生の部分はある程度必要なのかなということは、専門部会の中で話がありました。自分も感じることは、恵庭市の発展を見る場合、道の経済状況も見なければいけないということを考えれば、北海道もこれからは一つは観光であるし、一つは食料基地の担い手という部分で、農業の充実を図りましょうという話も出ているはずなんで、道外からの就労者を受け入れるときも、やはり、一次産業的な部分の農業従事者、多分道東の方ではかなり多くなってきていると思います、これは酪農の部分だと思いますけれども、サラリーマン世帯がやめて、新しいことに入っていき、そういう人の受け入れ態勢を整えることによって、本州に対して恵庭というのを PR できるんじゃないかなと思います。あと、田園都市構想みたいな形で、第一次産業と地域をうまく機能させて、目で見て豊かな、自然環境あふれて、安らぎのあるまちづくりを進めていけば、電車で 20 分行けば、大都市札幌があるわけですから、安らぎの部分で恵庭というものを充実させたほうが恵庭らしさがあるといいのかなという気はするんですよね。そうすれば自ずと子どもたちの生活環境もぎすぎすしないで、豊かな環境の中で育てただければ最終的には、土着するとか、郷土愛を持っていただいて、恵庭に戻ってきてくれるんじゃないのかなと。それで良くなれば多分道外から、逆に今北海道は道外から、こちらに入ってくる方がどんどん増えるのではないかなという。これだけ都心環境がいいですし、職場にいな

くても仕事ができる人が、何人も出てくるでしょうし、そういった部分で行けば、そういう豊かさを求めていったほうがいいのではないかと思います。

(村本会長) 産業別でもなかなか交流というのが無い。そういうことを考えると、もっともっと色んなところで交流が生まれるといいし、それによって、それぞれの仕事を理解をする。理解をしたときに、もっといい意見だとか、いいアイデアだとかが出てくるのではないかと。その部分を大切に。だから、行政ではなく市民が何をやるのか、ということを含めて考えていくのが大事ではないかなと思います。

(斉藤次長) 先ほどの道外からの、伊達の誘致の部分につきましても、今北海道で移住プロジェクトというものを立ち上げまして、市町村から募集しているところなんです。従来北海道に来て仕事がないので来れないという部分があったのですが、団塊の世代が、リタイアして、就労の問題は無いだろうということで、まさに今、調査が来ています。先ほどお話ありましたように、将来の医療とか、福祉とかありますので、市の財政的な見地だけから言いますと、確かに行政負担は増えるのかもしれませんが、北海道で試算しているのですが、地域経済に対する効果というものもかなり見ているんですね。行政に直接入りませんが、買い物したり住宅を建てたり、家賃を払ったりだとか、生活するわけですから、総合的に考えていくと地域にプラスになるのではないかと。

(松尾委員) そういう部分で、一点教えてください。いま、大店法が変わったことによって、大型店舗がどんどん道外から道内に進出してきている。恵庭千歳札幌近郊に、大型店が生活圏にきて環境が変わっていきました。こういう大型店舗が市内に来たときに、税収だとか、行政のメリットはかなりあるのですか。

(竹村部長) 店の規模などにもよりますので、試算したとは無いと思います。ただ、恵庭市の店舗の面積は他市から比べたら、多いんですよ。

(松尾委員) 何故それをここで聞くかという、大型化、自由化されたという中で、建設にしても、商業にしても、道外の大デベロッパーがどんどん道内に支店を出して、行政が貴重な起債を拠出して、工事だとか建設事業を行うときに、地元にいるような中小企業、表現は悪いかもしれませんが、資本的にある程度限界のある業者が、これまで地域産業を営んできている人たちが対応できないような大きな企業が入ってきて、ほとんど入札などでは大きい業者が落としている。最終的には地元の業者は下請けで、一次か二次で使って、せいぜい残してくれるのは、生活給の部分を恵庭に残してくれるのかな。そしたら貴重な生活給の部分も商店の部分で大型店舗が来て本州資本の大型店がどんどん進出してきて、そこでまた生活給の収益も回収してしまう。最終的に見てしまったら、全部本州の大手に出てきた金を全部持っていかれてしまう。地域経済にはなにも残っていない。というのが今の地域の実態だと思うんです。こういう部分からも地域の皆で共同体を組んで、地域の金は地域で回らなければならないという意識を市民同士で持っていかなければ。経済が、行政がいくらがんばったって、大資本の前には屈してしまうという形態が実際にあると思うんです。そういった部分もよく協議をしながらやっていかないと、ウエイトが全部行政にかかって、なおかつそれが全部市民に帰ってくるという形になるのではないかな。と常日頃疑問に思っている部分があって、自分の事言って悪いですが、農協の管理の仕事しているものですから、農協が関連する事業に関しては、とにかく地元の企業さんと提携しましょうということで各担当には徹底しているんです。やはり、代金支払う場合など地域でまわしていきたいという思いで使ってもらって、また、我々にも事業の中で返していただくというか、戻していただければありがたいなという部分でやっていかないと、地域の資本が、何も無くなってしまいうんすよね。

(村本会長) 多分適正バランスでしょうね。例えばまるっきり大きい店とかが無かった

ら面白みに欠けるだろうし。ありすぎたら、今言われたとおりになるし。バランス的にどうなのかな、ということで、ある程度会社もそうだし、行政もそうだし、もういいよ、という部分を市民の人たちにいかに理解をしてもらうのかというところなんですよ。買うほうから言えば、大きなほうが便利がいいので札幌に行ったりどこか行ってしまふ。ところが、まるっきり大きい店が無かったら、もっと出て行く。大きいのが無いと逆にここに住みたいという意識が無くなるかもしれない。だから、ある程度バランスの中で、泳いでいく。ここまでで勘弁してという部分がどこまでなのか、という見極めが非常に難しいなど。今言われた人口が10万になったら。もう一つぐらいいるのかもかもしれないけど、今の段階では、これでいいですよっていう、そういうことをきちっと出して、言っていける、その点を市民も理解をしてくれるそんな仕組みを作っていければ。

(松尾委員)市民の方でもこれ以上恵庭では要らないと、我々はこの範囲でいいよという現状をつかめるような意識をわかってもらえることもやっていかないと。成り立たなくなってしまう。余談になりますが、千歳のアウトレットがオープンして、ニュースでもやっていましたが、札幌から、苫小牧から車がたくさん来て、何時間も車で並んで、すごかったです。連休にあれで落ち込んだ近隣の人たちの影響はものすごいものがあったと思うんですよ。結果的には地域で一緒になってやってきた小さな老舗が、皆閉めなきやないということになる訳ですよ。そしたら人口減になっていくわけですよ。

(神田委員)松尾さん今話したように、今地域のまちづくりのことで、皆さんがワークショップをやったり、皆さんが色々と行政にも関わるし、色んな人たち工業の人や商業の人や、農業の人と話をしながら、どんなふうにも街づくりをしていって、我々が住みよい恵庭のまちをつかっていこうかと話している中で、やっと今市民が目覚めてきたっていうか、やっと自分たちがどうすればいいかということになってきたのはここ数年ですよ。そして今4期の総合計画がでていて、高齢者のことが介護保険のあたりからだんだん皆市民がいるんなことに関わって自分たちも一緒に勉強して、まちづくりをしていかなければならないという、そういうふうな時代になってきて、地域を盛り立てていくにはどうすればいいか。行政や財政のことも感心を持って、みんなやるようになってきた中で、これからの人口のことを考えたらやはりそれなりにみんなが努力をしなくては、人口も増えないだろうし、少子高齢化も進んでいる中で、いくら上ものをつくってもだめだという時代になってきたのだから、公共事業がだめになってきている中で、そのところを考えると人口を想定をしていけばいいかなと思います。ただ、少なく見込む必要はないし、あまり多いのも困るんですが、でもそれなりのものが必要かなと、今まではちょっと多すぎたのではないかなというのがありますが、だいぶ前から10万といっていました。これだけの人が住んでも大丈夫ですよというのが統計書などを見ながら出てきたものであれば、これ位の人が住んでもらえればというのを努力をするように、行政もそうだし、市民もしなくてはいけないということですね。

(村本会長)最初の審議会のときにも出ましたが、この議論をここだけでなく、我々が、どんな市民に聞かれてもきちっと答えられるというものを持ちたい。例えば、人口が増えるって言うのに、住んでいる人が、恵庭ってあんまりいい町じゃないよと言ったら、友達は来ないですよ。恵庭っていい町ですよ。是非退職したら恵庭市住んだほうがいいって。全部そろっている町だよって言ったら住む人が増えると思います。それには、将来人口が10万になるか何人になるかは別として、まず、今の段階で、今6万7千人という中で、これでも、多いくらいです。一昔、前は3万人の時は、それこそ、おーいといったら皆聞こえるくらいの、そして皆が、こっちを向いてた、今は人が増えて、みんながこっちを向くのではなくて、色んな方向を向くようになった。それをもう一度同じ方向を見てもらいましょう。その中で、色々議論をしていきましょう。そのためのきちっとした方向性をここでつけたい。今の皆さんの話、ほんとにその通りで精神論かもしれないませんが、そういうところを大切にしていっていかないといいかなと思っています。

(松尾委員)部門ごとのもう少しデータを出してもらうことによって、今の現実の人口層と空洞化になっている部分、再活用になれる余裕の部分を出てきたときにもう一回たたくことによって堅実な一つの想定人口というのが一つの提案を何かの事業を起こすことによって想定できると思うんですね。後は自然動態の中の想定数値なんて確実な数字じゃなくても、恵庭のまちは夏は涼しいし、雪少ないしこんな住みよいまちはないんだぞっただ聞いていたときはへえ～って聞いてるけど現実に来てみたらこんなに違うのかって言う事ありますよ。うちはたまたま農協が合併して江別の農協の職員が異動で通勤するんですけども朝来たらなんも雪がないけど、帰りは大吹雪。こんなに違うのかっていうくらい冬は環境違うんですね。だからいくらでもまちに住む場所あるからこっちに来いというんですけど、あっちからもこっち来いというんですよ。

(富永委員)ちょっとお聞きしたいんですが、平成2年位からどんどん生産年齢がずっと構成比が落ちてきてますよね。高齢層があがって年少が少なく生産年齢も構成比が少ない。高齢層だけが上がってきている。いってみれば都市構想を考えると生産年齢をどれくらいあげていくかが一番狙いなのか。どんどん老齢年齢ばかり増えていっても施策的には生産性がないから大変な問題になるものですからそのへんで施策的にもそれを考えていかないと生まれてこないような気がするんです。実際に望ましい生産年齢構想はどれくらいあればいいのか。それから出てくるまちづくりの施策が見えてくるんじゃないかと。高齢者ばかり人口が増えたといってもおのずから施策も変わってこなければならぬだろうという気がするんですけど。いかがでしょうか。

(斉藤次長)大都市の工業地域のそばのまちであれば通勤もするでしょうし国勢調査ですからそういう居住者でやっていますのでね。いろんな要素が入ってくるとそうならないかもしれないんですが高齢化はどんどん進んでいるんですが、生産年齢人口もですね率的には落ちますけども数字的にはあまりかわらない。さきほどいいましたように高齢化が10年後には25%くらいになる。そのときの生産年齢人口というのは60%台なんですよ。現状は67.8ですから7ポイントほど下がるんですが人数で申し上げますと2千弱なんですよ。ですから人口も緩やかに増加しつつ高齢化と同時にシフトしていきますけどもあまり生産年齢人口がどんどん落ちて経済環境に影響を与えるほどにはなっていないのかなという気がします。

(島田委員)ちょっと聞きたいんですがその生産年齢の人が恵庭に現住所を持っていて例えば札幌で働きたいといって働く人と、札幌に現住所持ってて恵庭に昼間来て働いてる人とがいますよね。要は夜の人口と昼の人口の差は何人くらいですか？

(吉田主査)12年度の数字なんですけども昼間人口は6万882人、夜間人口は6万5千238人ですから4,300人働きに市外に出ていると。

(村本会長)それくらい住みやすいということですよ。仕事が無いとも言えるかな。

(島田委員)家は建てるけれども職場がないということとそれから住宅建てるとしたら土地が安くて建てやすいということなんですね。

(竹村部長)3,400人くらい学生がいる。その人たちが恵庭の学校卒業したらなんとか恵庭に就職できる場所があればと思うのですが。やはり大学ができれば、まずは住みやすいから大学生も住民票持って恵庭のまちから大学に通ってくれと。札幌から通われてもどうにもならないので、そういう仕掛けも必要かな。だから卒業したら恵庭で就職したいというそういう受け皿を作りたいと。なかなか難しいですが。

(橋本委員)私も長年教員やっているんなまちを歩いてるんですね。北広島にもいましたし、石狩にもいましたし、今度恵庭に来たんですけれども。それぞれ一時的に住宅が建って千人いた学校がもう数百人。石狩の花川というところも市の小学校が4校あるんですけども3つに減らそうかということになっている。恵庭でも恵み野はそういう状況になってますよね。それぞれ北広も恵庭も石狩もそれぞれ札幌の通勤圏に入っている。最近恵庭にも札幌からの人が多い。石狩もそうです。それを今都市計画の方で宅地造成をして恵庭の場合札幌から20分程度でこれという快適な通勤条件にある。石狩なんかちょっとバス使わなきゃならないから難しいですけどもそういった恵庭のまちが好きで来たのではなくてときたま札幌に通勤するのも便利だと言う快適さを求めてきている。そういうときに家が貼りついて、子どもも学校に通わせなければならない。そしたら学校建てるという。20年後にはこうした子どもも巣立って行きますので残った父母は高齢化していく。世の中の流れですからいろんなところで事例が出てますのでそうならないよう歯止めをかけていくのが必要じゃないかなと。すでに花川もそうですし北広もそうですし、恵庭もそうなりつつある。そうならないよう施策を今から検討していく方がいいんじゃないかなと。どうやったら住みやすいまちになるのかなということ内外に向けてははっきりしていかなきゃならない。恵庭市はこういうところがいいんだよということを出発点で鮮明に打ち出していけばいいまちづくりになるんじゃないかなと。転勤して歩いてきた経験上そういうことを思ったので。恵庭はそのような施策をこれから考えていくと。できればなんとか北広島がなった状態というふうにならないような方法を考えた方がいいかなというふうに思っております。

(村本会長)今やろうとしている子育て支援だって、先程言っていましたけどそういうふうなことをきちんとできることによってお年よりだから年寄りだけでなく、必ず息子がいたり娘がいたり身内がいるわけですから、恵庭の子育てに対する環境をきちんと見出し出せばそこに戻ってその地域の学校に通わせる。ということだって不可能ではないということで。いかに国は、行政だけでなく地域も含めて、しっかりした子育て支援政策を作れるかという、そこにもっていく。または恵庭の学校の教育方法という子どもを育てる独特なものが必要になってくるのかもしれないし、もっと言うと自分で学校を選べるような魅力をつける。親が自分の子どもはそこに連れて育てたい。恵庭の支援を受けてきちんと成長させたいんだという気持ちが生まれる。それを生かして将来人口という事になっていく。

(橋本委員)うちの学校は恵庭小学校ですが、おじいちゃんも、お父さんも、僕も恵庭小だよというのがあるんです。たまたま校区変更で和光から動かそうという話もあったんですが、和光は20数年しか経ってないですけども、お父さんやお母さんが、私は和光小学校出身だから、子供も和光に通わせたいというようなことがあって、どこの家庭もやっぱり自分の出た学校に子どもを通わせたいということもあるのかなと。それが一つの伝統なんだなと。自分の出た学校に子供を通わせたいってね。そういった図式が出してくれば、あちこち行かないのでないかなと。そのために仕事をする場所が恵庭になればと。いくら、住んでも仕事の関係で、他に行かなければならない状況はありますから。住んでもえるような働く場を確保していく。産業というところをきちんとやっていかなきゃならないかなと。外部からどんどん入ってきてこっちから出て行かないようなそんなまちづくりが必要かなというふうに思っています。

(松尾委員)3期までやってきたことがだめというわけではなくて、これはこれで発展の経過できてますから、これから大きく見直ししていかなきゃならないところがたくさんありますから。従来の継承じゃなく一回良く何をしなきゃならない、何を検討しなければならぬ、といううえでの、やっぱり誰から聞かれても、どんな人口想定をしたんだ、といったときに同じ事を答えられるように、最終協議をもっていかないとちょっとどうかなと思うんですね。

(村本会長)本当に先程からも言ってますが、中を一回見つめ直してその区域を広げて人口を決めるのではなく、もう一回自分の地域を見直しているんな条件を整えてそして人口はどうなんだ。プラスアルファだったらどうしても将来的にこの区域だけは、市街化区域として開発しなきゃならんだろうという方にもっていかないと、最初から広げてしまうとまた同じ繰り返しになるんじゃないかと。その辺は、もう一回調べられる限り調べてもらって最終の人口想定をそういうふうにしていきたいと思えますね。

(松尾委員)スケジュール通りでなくたって会議が必要だったら、夜だって構いません。

(竹村部長)私たちもただこういう推計をもってただ出すのではなく、まちづくりをすすめるうえでの努力目標というか、夢の部分というか、そういうことをどれ位で考えて、統計数字に乗せるか、ということで悩んでいます。いかに適正な推計に乗せていくかいろいろ議論していただきたいなと。基本的にはそういうことです。

(村本会長)現実だけ追ってもしょうがない。夢としてね。市民としてのまちの努力目標というのを乗せて最終的にこうしようとかそれが見えれば多分みんな何をしなきゃならないかということが見えてくるんじゃないかなと。

(竹村部長)前回作ったときには、まだその2年くらい前のバブルの陰りがあって、その中でテクノパークの1期を7年でやったのを2期に5年で全部やったんです。それがガクンと落ちて、既存の工業団地もあるし無理だったんです。埋め立てても立たない。現実的に雇用に結びつくような企業が出てこないために雇用が生まれない。雇用がないということはやはり人が来ていただけない。そういう時代が出てきたわけですね。

(松尾委員)北海道にくる企業が北海道がどうこうという問題として来ないんじゃなく、逆に中国韓国むこうの方に企業が全部行ってしまう。あれから全然北海道にいないというのは津軽海峡わたって来る事が考えられないくらい。

(竹村部長)景気が回復して若い人たちが見えていただければ、企業の方も大丈夫だと。消費者の方たちも将来が見えて家を建てよう。その辺をどうやってやろうかと。

(村本会長)将来の計画が見えれば、人口が増えるということであれば今いったようにいろんなことが出てくる。にわとりとたまごみたいにどっちが先かということになってくる。やっぱりきちんと計画に沿って動いているということがみえないとなかなか他の人に帰ってこないということになっていくのかな。

(竹村部長)まだいろいろあると思いますけど時間もありますのでそういったことで。

(村本会長)本当に活発な意見ありがとうございました。それぞれのイメージが統一された。今後は人口想定についていろいろデータを見ながらやっていきたいと思えます。では次3番将来都市像の説明をお願いします。

(吉田主査)資料に従い説明。

(竹村部長)職員でも若い人から、幹事会、次長職ですが、もありますし、策定委員会、これは部長職です、もあります。その中でも投票したりしたんですけど、なかなか決まらなかった部分なんです。参考に出してはみましたが、とらわれないで欲しいんですよ。策定委員会の方でも統一したキャッチフレーズありますので一応お渡しいたしますので。今検討案の中で5ページ6ページちょっと見ていただきたいんですけど将来の恵

庭のまちの姿という4点目の部分。この2行が将来の恵庭はこういうまちの中に入りま
すのでと書いてある部分でそれを適切に短く表すというようなものが必要なと。

(吉田主査)今お手元に用意しました資料ですけど他市の事例ということで札幌、江別、
北広島、伊達市という各市町村の将来像を載せております。2番目は策定委員会では出さ
れた案で1番から17番までということでこれは将来的には策定委員会と担当部の中
で検討したいといろんな案がでまして、これだけではなかったんですけども投票ですと
かいろんなことをしながら17あるということです。この中で類似した言葉が幅が広い
という部分と将来像の部分でどういう言葉をキーワードにするかという部分でいろん
な考え方があるのかなということで参考までに載せました。

(竹村部長)先ほどいいましたように人口問題をからからめて各分野別の表現だとか
でできますよね。そういうものものを総称したものだということでそういうことを意識し
ながら最低限にしました。過去は今いったようにハードが中心でしたが、まちづくりは
だんだんソフト的になってきますよね。

(島田委員)まったく成長しないじゃないですけど極端な膨張はしないで、例えば10
年で人口が2千人位しか増えなくても、それですごく良く生かしていけるような感じで
すよね。1万人は恐らく増えないだろうと。なにか目玉がないと人が来ないけど、減ら
ないようにというキャッチフレーズですよね。基本目標の方の7ページに書いてくれた
のを上手く合せて資料ができればよろしいんですよ。言葉の数はそんなに多くないで
すよね。同じ水とか花とか触合いとかボキャブラリーはそんなに多くないですよ。

(村本会長)基本的には住んでいる人が基本なんだよね。住んでいる人をどういうふう
に文字にできるかということだな。ただ、市民とかだとおもしろくない。というかあん
まりストレートすぎてね。それが基本的だということが出てくればすべての分野がいら
なくなるような。

(竹村部長)これ難しいところなんです、長い表現もあまりよくないので。

(村本会長)極端な話恵庭だっていわなくても恵庭だってわかるような。そんなものが
いいかなと。

(松尾委員)会長がいうように都市の象徴なんでしょう。それであれば住む市民が俺ら
がまちだよという部分がまちの中心。その中に水があり空気があり花があり会話があり
地域がありという部分だと思うんだよね。だから一回それぞれの部分で、もう一回見直
しかければ、今言ったように生産年齢層ではなく子育てのそういう階層というのは恵庭
の中で福祉の部分考えたときにどれくらいの新生児の、例えば恵庭で結婚して子ども産
んで育てるときに産婦人科自体が足りないですよ。結果的には札幌だとか千歳だとか
子ども産むために安心して産むためにその期間だけ引っ越してる。そういう部分を例え
ば医療との関連先生とかの関連あるから一口ではいけないけどそういう部分の環境整
備も行政として必要な部分の中で基礎でもって進んでもらえるまちづくりというもの
を僕は考えていかないと。副会長いったように基点基礎の部分はずして人口構想とい
うのは考えられない。本当に現実そうですよ。

(島田委員)産科の問題ですよ。産科の先生というのは少ないんです。ちょっと何か
あると訴訟で、それが理由でなり手が少ないんですよ。ですから恵庭で今リブさんが
やってて、あとは止めました。各都市に例えば産科が必ずなきゃならないのかというこ
ろから議論始まるんですよ。あれば当然いいけれども、数が足りないんだったらど

っかに集約して安全に産める。だから恵庭市単独の問題ではないかもしれない。当然小児科の方にも書いてありましたけど先生がぐるぐるまわればいいんだけどなかなかそういう状態にはなりえない医者の数ですよね。まだ恵庭だと車で行けば札幌までいけるけどもうちょっと田舎いくとどうなのかっていうのは北海道全体の問題ですよね。

(松尾委員)そういうことなんかでも、わからん部分を先生方に話していただけたらなるほどなといったときに、これはもう恵庭市だけの問題でなく北広島市と千歳市と行政同志で総人口の中のそういう部分を所管してうまくいくような、そういう体制をつくるという部分も、それぞれのまちが基礎を作っていくっていうことなんですよ。

(村本会長)そろそろ2時間経ちますので終わりたいと思いますが。将来の都市像についてこれからも議論しながら、最終的に、皆様の意見を取りまとめて行きます。決して、例にとられることなく考えていきたいと思います。その他何かございませんか。

(佐々木主査)皆さんの方へご案内してはいるんですが、今のところ5月25日の都市環境部会を14時からこの会場で。次の日の26日に地域振興部会、これは市庁舎の第2委員会室で。それと5月27日に教育福祉部会、午後からは厳しいというふうにお話がありましたので先にご案内の方させていただいておりますが、各委員午前中に会議が出来るように調整したいと思います。よろしくお願いします。

(村本会長)委員のほうから何かございませんか？それでは無いようですので専門部会のほうは終わらせていただきます。非常にお忙しい中ではありますがぜひお持ち帰りいただいて活発な議論の方をよろしくお願いします。それでは以上を持ちまして第一回目の総合調整部会終わらせていただきます。ありがとうございました。

会議終了 15時59分